

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	独立行政法人国立病院機構箱根病院病棟等建替整備工事	階数	地上3F
建設地	小田原市風祭412	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	60人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2014年3月12日
敷地面積	4,525 m <sup>2</sup>	作成者	あい設計
建築面積	1,875 m <sup>2</sup>	確認日	2014年3月14日
延床面積	5,681 m <sup>2</sup>	確認者	あい設計



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★

S: A: B+: B: C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです (kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)

### 2-3 大項目の評価 (レダ-チャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境 (敷地内): 4  
LR1 エネルギー: 2  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.5

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・明確な計画コンセプト、敷地の諸条件を元に、デザインコンセプトを決定している。 患者様一人一人が、快適に過ごせる室内環境、サービス性能を確保している。 また、敷地内外環境への配慮も怠っておらず、高い省エネルギー性能も兼ね備えている。		<b>その他</b> 0
<b>Q1 室内環境</b> ・開口部遮音性T-1、T-2と遮音性に配慮している。 ・高い昼光率を備えている。 ・内装材はFを使用しており、空気質汚染の回避に努めている。 ・換気性能に配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> ・病室の広さ感に配慮。 ・内装計画は明確なコンセプトを元に、丁寧に決定している。 ・維持管理に配慮している。 ・階高、壁長さ比率と共に高く、ゆとりのある空間を提供している。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> ・30%を超える外構緑化指数を確保。 ・周辺との色彩の調和に配慮している。植栽を道路側に多く配置、眺望景観の妨げにならないよう建物高さを抑え、建物の配置を道路から後退させている等の、取組みが行われている。
<b>LR1 エネルギー</b> ・ガス、電気、油による熱源の比較をライフサイクルコスト試算表を元に検討している。 ・電気式ヒートポンプ給湯器を採用したことにより、将来を見据えた計画の提言を行った。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水型水栓に加え節水型便器の採用など、節水に配慮している。 ・防水工事のプライマー採用で室内外の空気質環境に配慮。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・ヒートポンプ給湯器の採用で敷地内外への大気汚染防止に努めている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される